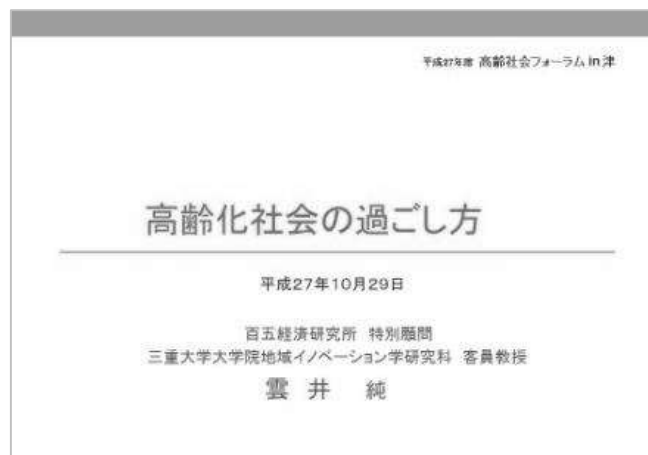


## 【雲井】

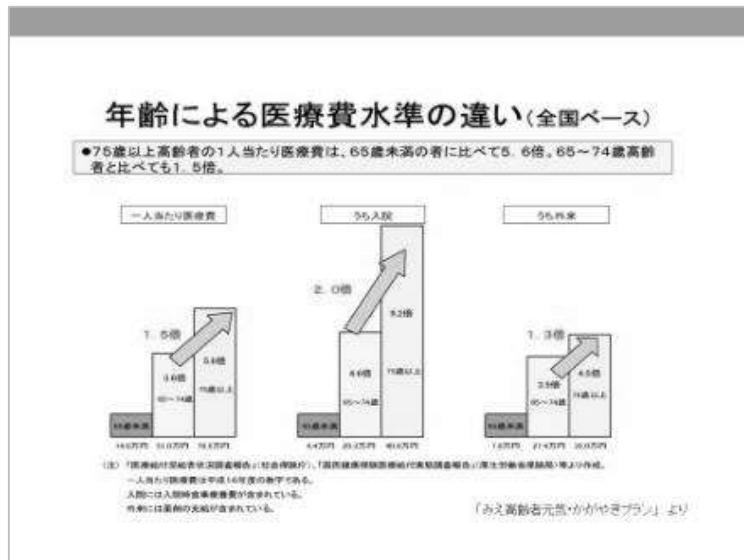
先ほど、鈴木先生からお話がありましたように、今までのお二方とは違って、地域の視点というところから高齢化社会を見ていきたいと。私は、立ち位置をまず最初にお話ししておきますと、昭和24年、1949年、津市の、地元の生まれでございます。ということは、同年代の方もいらっしゃるかと思いますが、66歳。つまり、このメンバーの中では唯一高齢者ゾーンに入った年代でございます。先ほど鈴木先生とお話ししたら、先生は51年だそうですね、まだちょっと一歩手前ですが、そういう意味では、私が唯一この年齢層に入ったと、そういうこともありますので、その辺の実感を踏まえながらお話をしていきたいなと思っております。先ほど、鈴木先生からお話がありましたように、今までのお二方とは違って、地域の視点というところから高齢化社会を見ていきたいと。

それから、私は地元出身ではありますけれども、大学から東京へ行きまして、そのまま東京で就職して、全国で26年間勤務しておりました。平成10年、98年にこちらへ戻ってまいりまして、百五銀行の役員、8年ぐらいたったのかな、それから経済研究所の代表、これをやはり8年ほどやって、その間に、三重大学が地域イノベーション学研究科という地域を活性するための人材を育てようと、こういう大学院を7年前に立ち上げましたので、その立ち上げのときから関与しまして、以来、非常勤講師として学生の指導に当たっていると、そういう経験しておりますので、そういう意味で、はやこちらへ戻ってきてから17年は経過しましたが、一応、地域のこともわかって、それを踏まえた上でいろいろ御説明していきたいなというふうに思っております。





それから、社会増減、他府県からの転入者、それからこちらからの転出者、これを見ても、約3万7,000人の転入者に対して3万8,000人少々が県外へ出るということで、社会増減についてもマイナス1,183人というふうになっております。これは、三重県のほうで、みえ高齢者元気・かがやきプランというところからちょっと拝借している図ですけれども、これは現在ですね。現時点で高齢者人口が27.7%、あと、20年後の2035年には、この比率が33.5%、つまり、人口の3分の1、3人に1人が65歳以上人口になってしまうと。

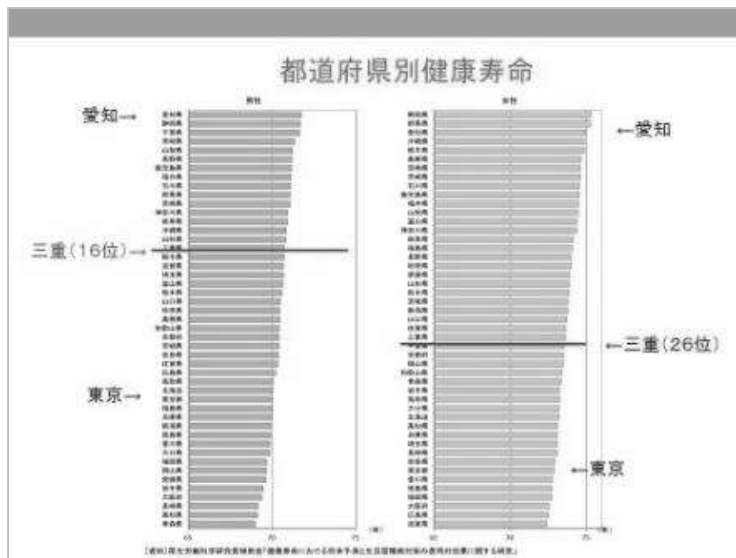


これは2035年ですけれども、ちょっと話がずれますけれども、東海・東南海地震が30年後の確率が何%とどういうことと言われておりますけれども、この地震の場合は、来るか来ないかじゃなくて、必ず来るわけで、いつ来るかというのが問題と、それと、来たときの規模がどうかというのが問題になるわけですけど、かなり高齢人口が増えてきたところで地震のリスクというものが発生するということも、ちょっと頭の片隅には考えておかなきゃいかん問題だなというふうに思っております。

いろいろ行政の方たちも、高齢化をどうするかと、特に健康寿命をどうするかということがこれだけ話題になるというのも、ここのグラフから御覧になられてわかるように、やはり75歳以上になりますと、どうしても入院も増えますし、医療費も増えると。例えば、悪いのかもしれませんが、最近の国産車ですと、12、3年はちょっとした定期メンテナンスでいけますけれども、そこから後はやはりいろいろと故障も出てきて、部品も交換しなきゃいけないということで、維持費がかかるようになるように、人間もやはり同じようなことが言えるわけで、そこをいかに抑えていくかと、この辺が大きな課題になっているというふうに考えられます。

## ●県別の健康寿命比較

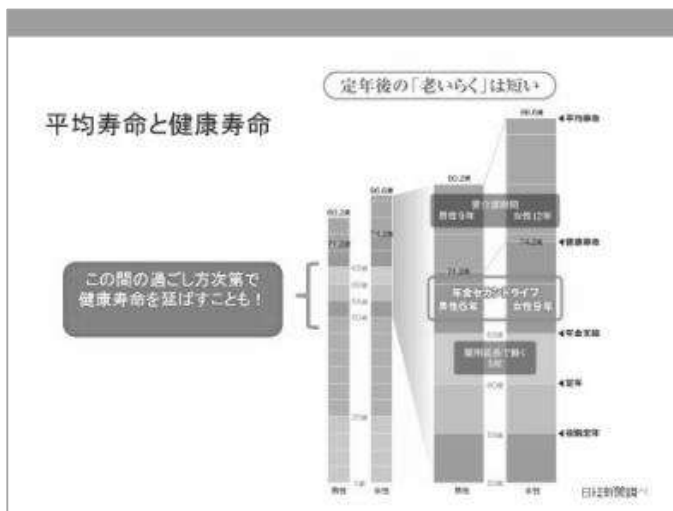
では、三重県、健康寿命、健康寿命とたくさん、今日、お話が出てきておりますけど、これは2012年かな、厚労省の統計がずっと出ておりますけれども、三重県ってどのぐらいの位置にあるのかというふうに考えますと、健康寿命から高いほうから並べて、男性の健康寿命が16位で、平均よりも少し上、意外と三重県の男性はいい位置にあります。女性はちょっと下がって、絶対年齢は女性のほうがずっと高いんですけども、26位という場所にあります。三重県というのは、いろんな統計的に並べますと、大体日本の全体の平均的なところに来るので、これも比較的的平均的なところにあるかなと、そういうふうに思っております。



●愛知県はトップクラスの健康寿命

この中で見て、おやっと思うのは、東京が意外に低いところにあるんですね。これは絶対的にはわずかな年齢だし、人口構成とかそういうのによって微妙に違うんでしょうけれども。その意味では、三重県は割と高いところにある。そして、この近隣でちょっと見ますと、愛知県というのが男女ともほとんどトップクラスにある。これはなぜなのでしょうね。医療施設が整っているかどうかとか、そういうことになると、東京なんか、当然高いところに行くのかなと思っていたんですけども、意外とそうでもないなど。愛知県ぐらいの規模の生活パターンというのは、それほど混雑もしていないし、比較的的自然も近くにあつて、病院とかそういうメディカルサービスも割と受けられて、そういう意味で比較的いいのかなと思うんです。それから、比較的温暖であるとか、こういう要素が絡んでいるのかなというふうに思われます。

ここからが平均寿命と健康寿命というところ、これは再三先ほどからお話もありましたけれども、我々サラリーマンということにおきますと、まず、このごろ定年は60歳から65歳まで上がってきましたけれども、我々がまだ若いころは、大体銀行の場合ですと55歳と言われておりました。さすがにそれではいけないし、現在、年金支給年齢が65歳までなってきましたので、そこまでいかにつないでいくか。定年延長とか、そういう形で会社のほうもいろいろと働く場を提供したりはしておるんですけども、やはり我々の同期生を見ましても、65前後を機会に、同窓生名簿の中の職業欄がだんだんブランクになっていくというのが現実でございます。



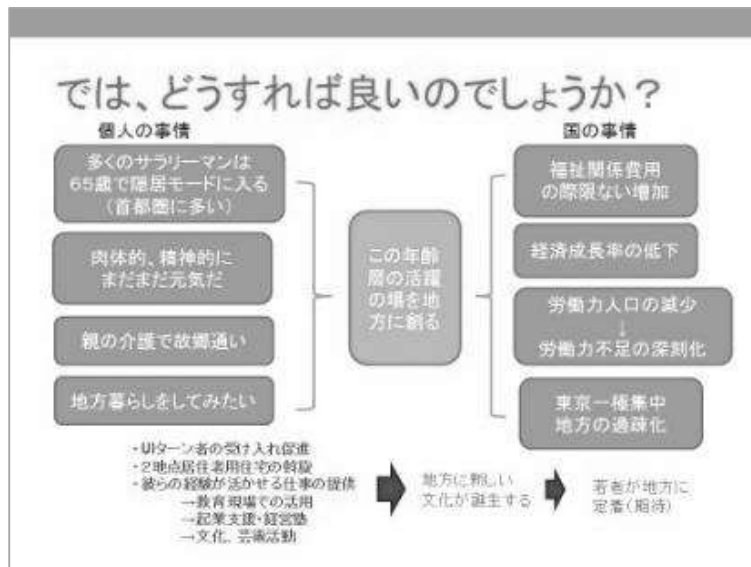
## ●セカンドライフの在り方

そこで、セカンドライフモードに入って行くわけですが、この間の過ごし方、銀行的に言えば、そういうセカンドライフを、ゆとりを持って過ごせるように早くから貯金しましょう、こういう投資信託で財産運用しましょうとか、そういうことが営業的なお話としてはあるんですけども、年金は我々の世代ですともらえますし、ある程度の蓄えもできているというところですけども、そこで何をしたらいいんだろうかというところがやはり問題でして、割と趣味でぶらぶらしたり、そういう世代が比較的多くなっております。この人たちが健康寿命を維持するためには、この年齢層いかに生きがいを持つとか、さっきの濡れ落ち葉状態にいると、メンタル面でもおかしくなっていくますし、健康を維持するのが非常に難しくなってくるかと思えます。ですので、そこをどういうふうにしたらいのかなど。

## ●福祉予算と高齢人口

最近そういう点から、地方創生と絡めて政府もいろんな政策を出すようになっていきます。今、いろんな世の中のニーズを書いてみたんですけども、右側が国の事情、左側が個人の事情というふうに書いて、これの折り合いをどこでつけるかというふうなところを見ていただければいいんですけども、国の事情としては、やはり高齢者が増えてきて福祉関係の費用が増える。年金の財源もどうしようかといったあたりで非常に厳しくなっていることは間違いないです。

その一方で、労働力人口はどんどん減ってきます。我々団塊の世代が、今、高齢人口に入りましたので、団塊世代の最後のほうですから、これが今66ぐらいですから、あと20年ぐらいしてくと、この年代層がごそと減ってきます。その次に第二次ベビーブーム層が上がってはきますけれども、ですので、今後20年ぐらいで日本の人口というのはぐっと減ってしまうと。



特に若年人口というのは今でも非常に減ってきておりますので、特に三重県の企業の方、いろいろヒアリングしても、若くて優秀な人をどうやってとっていったらいいんだろうかと、自分たちの後継者をどう育てていいんだろうかと、この辺が一番大きな悩みとして出てきております。

先ほど申し上げたように、65歳から隠居モードに入る人も増えてきていますけれども、ただ、先ほどからの御説明にあったように、少なくとも昔に比べれば5歳は若返っていますね。5歳以上若返って、肉体的、精神的にもまだまだ元気な人がいっぱいいます。その一方で、我々が同窓会等で集まると、いろいろ話が出てくるのは、やはり親の介護問題。我々でいくと老々介護の中に入ってくるんだと思いますけれども、長生きの御両親の場合だと、田舎へ残してきた、大体お母さんが残っている場合が多いんですけれども、それをケアするために、兄弟間で交代で月に月のうち何日間かこっちへ帰ってきているとか、そういう人もおります。

その一方で、アンケートを東京でとると、地方暮らしをしてみたいという人が結構いるんですね。これは、憧れといいますか、そういうだけで、ごみごみした東京ではなしに、地方へ行って畑を耕し、地方生活を満喫したいと、そういう思いを持っておられる方がいて、実際にいろいろ実行されている方もおります。奄美大島とか、沖縄とか、結構東京から移住している人が多いです。

## ●地方で暮らすー新しい生きがい発見

最近見ていると、我々の仲間でも、さすがになかなか三重県は来てくれる人は少ないんですけれども、東京の郊外である軽井沢とか、山梨県とか、この辺は結構通勤可能圏みたいな感じで、2時間ぐらいで車で東京へ戻れるようなところへ家を建てて、そこに定住しているような人たちも増えてきています。ですので、そういう2つのニーズ、シニア層、この人たちにいかに生きがいを持って、何か夢を持って働いてもらって、そうすることによって健康寿命を延ばすと、それができないかといういろんな施策が始まっております。

これは、UIターン受け入れの促進と。三重県でもいろいろ空き家をあつせんしましょうとか、こういう活動も活発にやっておるようだけれども。それから地方創生と絡めた2拠点居住者住宅のあつせん。私の実感からしますと、地方へ戻るといっても、東京で、名古屋でもそうかもしれませんけれども、家をつくってそこで定住してしまうと、家族の問題から、田舎暮らしにすんなり、家族の反対があつてなかなか来れないというのが現実です。そのために、別に東京なり、大阪に家があつてもいいじゃないのと。それから、月のうち何日間かは、地元というか、三重県なり、地方へ行って、そこでいろいろ地域に溶け込んで何か仕事をする、あるいは、そこで、今までできなかった仕事を見つけてやるとか、そういうような仕事をあつせんする政策というのが言われ始めております。それで、都会の人たちがこっちへ来る。そこへうまく定住することができれば、これは地方の活性化としてもいいわけですけれども。

## ●地方の人手不足

それと、最近、政府もまたいろいろ政策として、先ほどの、やはり地方では人手が足りなくなっているという問題がたくさん、製造現場や、それから会社経営する人が少ない。それでは、いろんな経験を積んだ人たちを地方へあつせんして紹介しようと、こういうような政策もいろいろ打ち出されてきておまして、最近ずっと動きを見ていますと、以前、バブルが崩壊したときに、倒産しかかった企業、これを救うために産業再生機構という機構をつくったんですけれども、これが、一応、最近経済的にも持ち直してきたので役割を終えまして、それが地域経済活性化支援機構とか、名前を変えて、いろいろ地域の企業をサポートしたりとか、そこにまた、さらにその下に、日本人材機構というような組織をつくって、東京の人たちなんかを地方の中小企業等に還元できないかと、こういう仕事を始めておるようでございます。

ただ、なかなか地方と東京で働いた人たちの感覚とは違いますので、実際、我々の経験からいっても、すんなりとはそういう都会の人が地方へ来て働いていただくということは難しいだろうなと思うんですけれども、そういった動きが活発化してきていることは間違いありません。